参加対象　教員、社会教育関係者、NGO関係者、一般
定員　100名
参加費　13,000円　（資料として『対立から学ぼう』代を含む）

※なお、なるべくゴミを出さないように、お願いいたします。

■東京YMCA国際奉仕センター

JR
- ●神田駅　出口（西口、北口）
- ●御茶の水駅　出口（聖橋口）

地下鉄
- ●丸の内線 淡路町駅　出口（A-2・A-4）
- ●千代田線 新お茶の水駅　出口（B-6）
- ●都営新宿線 小川町駅　出口（A-6）
- ●銀座線 神田駅　出口（北口）

加入者名：ERIC　（通信欄に「グローバル・セミナー」と明記してください）
参加費用振込先　郵便振替口座：00180―5―710744
〒114　東京都北区東田端1-14-1　岩瀬ビル1F　ERIC「グローバル・セミナー」係　☎03-3800-9416　担当：高橋
お振り込みください。
✱参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送りください。また、参加費は指定の郵便振替口座に

後援　文部省、全国高等学校国際教育研究協議会、全国高等学校長会、帝塚山学院大学国際理解研究所

開催日程　1997年6月28日（土）～29日（日）
会場　東京YMCA国際奉仕センター　東京都千代田区神田美土代町7-1　☎03-3293-7011

主催　国際理解教育センター（ERIC）
協力　東京YMCA国際奉仕センター

1997.6.28–29 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

GLOBAL

［開催主旨］

価値観が多様化する中で、私たちは異質なものと出会い、異質なものから学び、多様性をプラスにとらえる必要に迫られています。異質なものの間には対立があります。対立から学ぶことができるという信念、学ぼうという態度、そして解決のあり方を探る心構えが今の時代に生きる必須条件になっています。

その前提また過程で重要なのが多様性を尊重するための自己理解、コミュニケーションです。そのための教育はこれまでにも行われていますが、さらに踏み込んで多様性のゆえに当然起こる「対立」について充分に考えてきたとは言えません。日常の人間関係の中でいらいらしたり、怒りを感じるときに、そのことと向き合いじっくり考えないために、自己理解や相互理解の芽をつんでしまうことも多いのではないでしょうか。

今回のグローバルセミナーでは対立解決の手法を学ぶことで、ともすれば「否定的」にとらえられてきた対立が、実は多様性、個性、信念のあらわれであることを理解し、そこから個人及び社会が成長できる力にしていけることを願って企画をたてました。

第１日目は、対立から学ぶための手法や活動を体験し、対立の解決の大切さを伝えるためのトレーニングを中心に行います。２日目に、対立解決の手法としてよく使われるロールプレイや劇的手法を使いこなし、あるいは対立解決の授業案・研修プログラムづくりに挑戦していただきたいと思います。さらに、このような研修の手法・内容を参加者自身が広めていっていただけることで、日本における国際理解教育の内容を深め、推進することに寄与できる内容であることを確信し、ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思います。

GLOBAL SEMINAR

PROGRAM

6月28日(土)

9:15　受け付け開始

10:00～　基調講演「対立の中での対話」
全体研修「対立解決のカリキュラム」
William J. Kreidler

12:30　昼食

13:30～　研修：「対立から学ぼう　中等教育におけるカリキュラムと教え方／Conflict Resolution in the Middle School」を使って
研修Ⅰ　「対立から学ぼう」（英語で研修）
William J. Kreidler
研修Ⅱ　「対立から学ぼう」（日本語で研修）
ERICファシリテーター
研修Ⅲ　〃

17:00～　非暴力トレーニング「自分を拓き、社会の問題の糸口を探り、問題解決を目指す」　阿木幸男

19:00　懇親会

6月29日(日)

8:15　受け付け開始

9:00～　分科会：寸劇、ドラマ、授業案・研修プログラムづくりに挑戦！
分科会Ⅰ　「安心・自信・自由」などの権利意識を育てるためのロールプレイ徹底活用法　グループCAP
分科会Ⅱ　地球市民教育にイカす自己理解・コミュニケーションのためのドラマづくり　コミュニケーション・ラボ21　中田晃
分科会Ⅲ　対立解決のための授業案・研修プログラムづくり自由自在
ERICスタッフ

12:00　昼食各自

13:00～　分科会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ続き

15:15～　各分科会成果発表
質疑応答
全体ふりかえり

17:30　終了

●講師紹介

●ウィリアム・クライドラー

対立の解決スペシャリストとして研修・教材開発を主に行う。小学校の教師を経た後、教育コンサルタント及び対立の解決、暴力予防のためのプログラムや教材開発に携わってきた。著書は「Conflict Resolution in the Middle School」の他、「Creative Conflict Resolution/More than 200 Activities for Keeping Peace in the Classroom (GradeK-6)」「Elementary Perspectives: Teaching Concepts of Peace and Conflict」など多数。1988年よりESRに参加。

●ESR

ESR（Educators for Social Responsibility）「社会的責任を求める教育者の会」。公正で平和な社会を目指し責任をもって行動する子どもの育成に携わる教育NGO。対立の解決トレーニング・暴力防止のための教育の推進に関わり、研修・教材開発などを行う。国外では、カナダ、イスラエル、ポーランド、ロシアなどでもプロジェクトを手がけている。

●「Conflict Resolution in the Middle School―対立から学ぼう　中等教育におけるカリキュラムと教え方」

対立とは何か、対立を激化するもの、対立の分類、対立の解決方法、交渉、調停、仲裁（第三者による対立への介入のし方）、多様性とは何か、偏見や差別、多様性と対立、などの対立をとりまく事柄について知り、考え、行動するための指針となる、理論に裏打ちされたアクティビティがつまった内容です。

定価　6,300円（税込み）予定
※研修参加費の中に含まれます。

●阿木幸男

翻訳家、予備校講師、非暴力トレーナー。現在、杉並区民大学企画運営委員、「日本チェルノブイリ連帯基金」の理事など、多数のNGO活動に関わる。著書に「非暴力トレーニング」（野草社）、「非暴力」（現代書館）。翻訳「核文明の恐怖」（岩波書店）など。

●グループCAP

こどもたちが自分自身の権利について理解し、その権利を奪おうとする虐待やいじめなどのあらゆる暴力に心と体と知恵をもって対抗できるようになる予防教育プログラムを実践している団体。プログラムは、アメリカで開発されたものを日本に合うようにアレンジした。

●現代座（コミュニケーション・ラボ21）

創立30年になる劇団。その名の通り現代的課題を扱った演劇によって、「ひびきあう劇場」をめざしている。地域を歩き回り、人びとのつながりを創造する。コミュニケーションを取り戻すためのコミュニケーション・ラボ21という表現集団を生み出している。

日本教育新聞 平成9年(1997) 4月26日(土)

国際理解のヒント

対立から違いを理解

キーワードは「お、いいか」

①環境②平和③人権④開発⑤異文化⑥未来教育。国際理解教育を六本柱でとらえるERICは、国際とは、国と国の関係ではないとする。同じ国内にもさまざまな人がいるからだ。

「国際の『際』はボーダー。コミュニケーションギャップも含め、人と人の間には文化的背景や価値観のボーダーがあることを理解しなければ、お互いに学ぶことはできません」と、事務局長の角田尚子さんはいう。

多様性の尊重を分かりやすく習得する手段に「多様性カード」がある。カラー（生まれつき）、文化、政治力、性格、状況を項目別にカードに書き、トランプのように配る。自分と比較し、違いを実感できる。

角田さんが注目する「対立」も、違いから生まれるもの。対立の構造や本質の理解は、平和教育にもつながる重要な手段だ。

ERIC内の資料情報センターが編訳、発行した「ワールド・スタディズ／学び方・教え方ハンドブック」は実践例として「学校でけんかするのはどんなとき」を紹介する。対立の問題点を自分の目で確かめるのがねらい。まずクラスでけんかやいい争いの体験を発表、原因や解決法を話しあう。その後二人一組で校内の対立を観察し、教師が対立の種類（悪口、暴力など）や原因、決着を図表にまとめる。

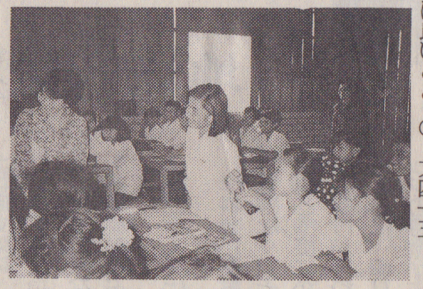
最後の話しあいでは「初めの仮説はどこまで証明できたか」「殴りあいを減らすことは良いことか、また可能か」「非暴力的解決は暴力的解決よりよいか」を検討する。

対立の場面のポイントは、「落ち着きお互いの意見を聞く」「一緒に考える」「いい分はそれぞれ」「解決しよう」。頭文字から「対立を解決するのに『お、いいか』です」と覚え方を説明する角田さん。身近な例からペルーの大使公邸人質事件のような社会事象まで、さまざまな題材から学習を広げることができる。

話しあいやロールプレイの活動（アクティビティー）を実施する上で、いい争いの体験を発表、ERICが提唱するのは対比、分類などの視点（参加型で伝える十二のものの見方）。

「いろいろな教科で繰り返し使えるのが学校の強み」と、角田さんは日常での積極的な応用を奨励する。

ERIC＝☎03三八〇〇・九四一五



カンボジアの学校を訪れた角田さん（左側）

メモ

国際理解教育センター（ERIC）　教材開発、翻訳研究、ワークショップを通じ学校・社会教育で実践できる授業案や活動案の普及を図る。一九八一年設立。六月末、「対立から学ぼう」を翻訳出版予定。八月のオーストラリア研修ツアー参加者募集中。

…2…